

学校名 豊島区立西池袋中学校

校長名 八 尋 崇

学校の教育目標

人間尊重の精神を基調に、次代の日本と国際社会を担うことのできる、たくましい、心豊かな生徒の育成を目指し、次の目標を定める。

- 自ら学び、正しく判断できる人になろう。
- 責任を重んじ、思いやりのある人になろう。
- 心身ともに健康で、強い意志で生きる人になろう。

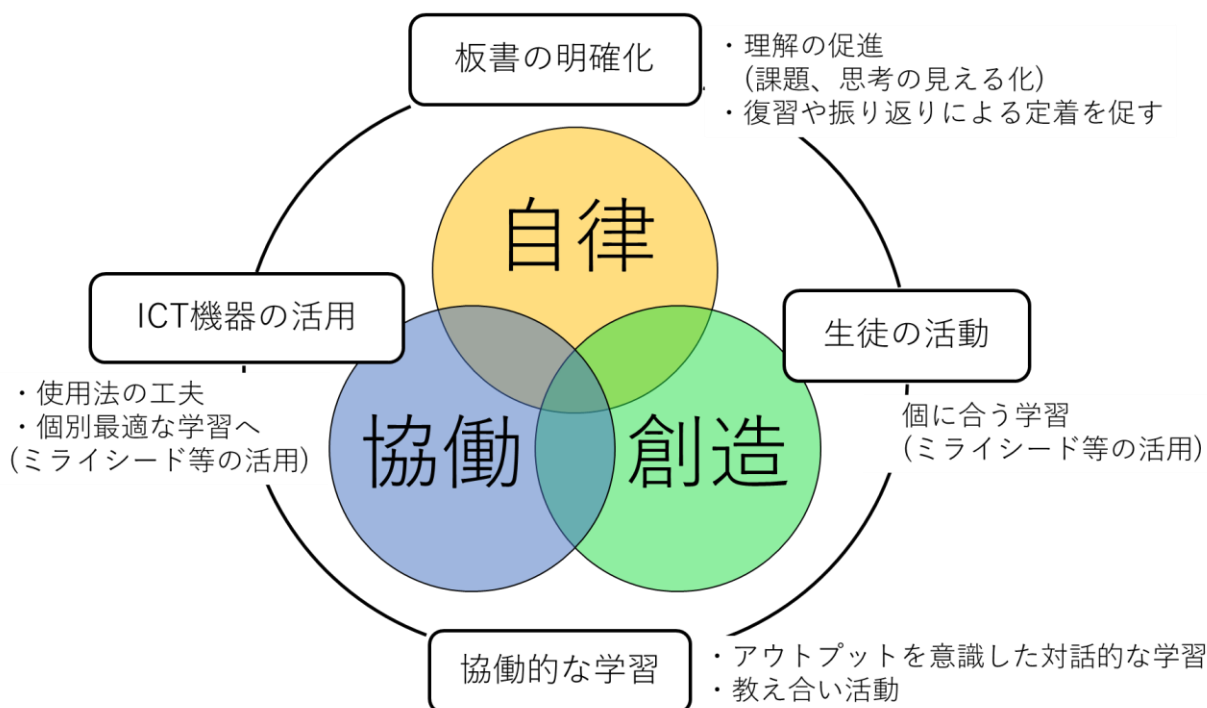
学力に関する目指す生徒像

自律（自立）・協働・創造

- ・自ら進んで、選択し、行動に移すことができる
- ・仲間を大切にし、共に活動できる
- ・他に貢献し、自己肯定感、所属意識を高める

授業改善推進プランの全体像

基礎的・汎用的な能力の育成



令和6年度 授業改善推進プラン（各教科）

1 国語科

目指す生徒像を基にした国語科で育成したい資質・能力		
・対話や議論を通じて、協働的に問題解決をする力 ・必要な情報を取捨選択する力 ・伝える相手や状況に応じて、適切な表現をする力 ・習得した知識・技能などを創造的に日常生活に活用する力		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	区の学力調査において、全ての領域で区の平均を下回っており、基礎学力の定着に課題がある。	漢字について小テストやまとめテストを実施し、継続的に学習する習慣を身に付けさせる。 活用力については、目的や相手を常に明確にし、モデルを例示して学習活動の見通しを持たせたいうえて学習課題を提示する。文章や作品の相互鑑賞の機会を増やす。 また、C B T等を活用し、知識・技能の定着を確認しながら授業に臨ませていく。
2年	知識の観点「文法・語句に関する事項」において正答率が目標値に達していないことがわかる。	特に、歴史的仮名遣い、単語、部首についての理解が不十分であるため、ミライシードやC B Tを活用して、「覚える→テスト」を繰り返し、確実な定着を図る。
3年	学力調査の結果を見ると、知識の観点「漢字を書く」において定着に偏りがあることがわかる。	ミライシードやC B Tを活用して小学生で学習した漢字をもう一度おさらいする時間を設ける。また、それらを使って自分の考えが明確に伝わるように作文し、定着を図りながら表現力も磨く。

2 社会科

目指す生徒像を基にした社会科で育成したい資質・能力		
知識・技能、思考力・判断力・表現力を身に付けた上で、「主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意義の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成」のために主体的に学習に取り組む態度を育てる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	授業に関心を持ち意欲的に取り組む生徒も多いが、基本的知識が身につけていない生徒もいる。課題を持ち主体的に取り組もうとする姿勢は全般に弱く、自らの考えを書くことが苦手な生徒もいる。	パワーポイント、実物教材、新聞資料等を活用して、興味関心を持ち自ら進んで学ぼうという姿勢を育てる。 基礎的な事柄を定着させるため、確認テストやC B Tを活用する。単元テストも実施する。 オクリンクを活用し、自分の考えをまとめ、同時に他者の意見を知ることにより、自分の考えをより深め、必要に応じてグループ討議を行う。
2年	授業中の課題を解決するために意欲的に取り組もうとする生徒は多い。ま	ミライシードやC B Tを活用し、基礎知識の定着を図る。 定着した知識を活用して様々な資料から自らの

	た、発表やプレゼンも一生懸命に取り組もうとする姿も多数見受けられる。一方で、基礎基本の定着が不十分なことから自身の考えを記入する課題を途中で諦めてしまう生徒もいる。	考えを導き出す思考力向上の場面を積極的に授業に取り入れる。 プレゼンなどの発表の機会を設けることで課題を主体的に解決しようとする態度の育成を図る。
3年	区の学力調査より地理分野の正当率が目標値に至っておらず、全体の正当率の低さの原因になっている。 3年になり、課題への取り組む意識も高い生徒が多い。	3学年の学習内容だけでなく、今までの学習を振り返る場面を作り、スパイラルの学習を心がけながら授業計画を立てる。また複数の資料をもとに自分の考えを学習した内容をもとにまとめ、表現する機会を適宜設け、思考力、判断力、表現力の育成に努めていく。

3 数学科

目指す生徒像を基にした数学科で育成したい資質・能力		
数量や図形に関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、技能を習得し、数学的な思考力・判断力・表現力を養う。また、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、主体的に考え判断したり、習得した知識などを活用して問題解決を図ろうとしたりする態度を育てる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	学力調査では、すべての分野において区の平均を下回っており、学力状況に課題がある。	計算コンテストをはじめとした基礎力定着のための取り組みを行う。また、必要に応じて小学校の内容の復習を取り入れる。上位層の授業では考えをアウトプットする機会を多く取り入れ、思考力・表現力を育成する。
2年	学力調査の結果では、数と式、関数の分野において区の平均を下回っており、学力状況に課題がある。	数と式の分野においては、繰り返し演習をする時間を取り、素早く正確な計算ができるような授業展開を心がける。また、年に2回計算コンテストを実施し、基礎的な計算を定着させるようにする。 関数の分野においては、図・式・グラフの関連を意識させるような授業展開を心がける。
3年	区の学力調査の結果では、校内の平均正答率が全国のものよりも9.8ポイント、区のものよりも4.2ポイント高い。領域別にみるとデータの活用の領域のみ、校内平均が区の平均を下回っている。	毎回の授業で、アウトプットを意識した対話的な学習活動を取り入れる。また、各単元で1回程度はICT機器を用いた授業を行うことで、より深い理解を目指す。また、データの活用の領域では、身近な具体例を題材として取り上げることで、授業に入り込みやすくする。

4 理科

目指す生徒像を基にした理科で育成したい資質・能力		
自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則に関連する事象から問題点を見いだして、科学的に探究しようとする態度を育て、その過程で得られた結果を正しく分析したり、考察したりする事を通して科学的な思考力・判断力・表現力を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	区の学力調査より2つの分野を除いて目標値に達していない。基本的な知識の定着の必要性のみならず、多くの生徒が科学的な思考に至る過程も乏しい様子が授業中の様子からもうかがえる。	基本的な知識の定着については、1単位時間ごとの確認、章ごとの確認、単元ごとの確認とスパイラルの学習になるように計画しながら、C B Tやミライシードのドリルパークなども活用し、定着を図っていく。また、科学的な思考の過程を授業中に明示する機会を多く作り、自らの考えに至る過程を表現する場面を作っていく。
2年	区学力調査等の結果より思考・判断・表現の観点の正答率が各単元とも目標値に達成していない。	基本的な知識・技能については漢字練習・ワーク・C B Tや小テストや各単元のまとめテストを行うことで、定着に努めていく。実験・観察を実際に行うことで体験を活かし理解力を深め、考える機会を多く設け思考力を高めていく。
3年	区の学力調査より、実験・観察の問題における無回答率が減少した。しかし、知識面で、類似している用語での誤答が多くあり、正確な知識技能の定着に課題が見られる。	これまで通り、体験的な学習を計画し、生徒同士がその考えを話し合い、深めていく時間を意識的に設けていく。また、基本的な知識技能の定着を図る上で、授業中の演習だけでなく、ミライシードのドリルパークなども繰り返し行うように指導して定着を促していく。

5 音楽科

目指す生徒像を基にした音楽科で育成したい資質・能力		
・音楽の基本的な知識を生かして表現する力 ・音楽表現を創意工夫する力		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	授業に対して意欲的に取り組んでいる生徒が多い。しかし、思いや意図を読み取り、言葉で表現することが苦手としている生徒もいる。	話し合い活動や発表の場を設ける。自分なりの考えをもつとともに、自分とは異なる他者の考えにも耳を傾けるなどして、他者との関わりの中から自分の考えを一層深めていく活動を取り入れる。
2年	歌唱・鑑賞の楽曲について興味をもって授業に取り組んでいる。諸要素を知覚・感受し、イメージや感情をもって言葉で表現することが苦手な生徒もいる。	曲想、音楽の構造、歌詞の内容などに触れながら、自己のイメージや感情を考えさせ、表現の工夫ができるような探求する授業を取り入れる。
3年	授業に対して、主体的に取り組んでいる生徒が多い。しかし、得た知識や技能を生かしながら表現活動を創意工夫することを苦手としている生徒が多い。	声の音色や強弱について、歌い試す中で具体的にアドバイスをする。また、言葉で思いや意図を伝えられるように思考力を高めるようなプリント学習を行う。

6 美術科

目指す生徒像を基にした図画工作科で育成したい資質・能力		
・表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、内面にあるイメージを構想し、今までの経験を生かして表現方法を工夫する力を培う。さらに自己の中にある発想を具体化し形に表す技術を高める。 ・自然や生活の中にある造形的な美しさや表現の意図や工夫、美術の働きについて感じ取る力を育てる。 ・創造活動の喜びを味わい、生活を豊かに想像していく態度を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	楽しんで制作に励む生徒がほとんどだが、作業速度が遅く、進度に開きがでる生徒が一定数存在する。	制作全体の見通しをもたせて作業に取り組む。毎授業ではその時間の制作目標を板書し、遅れが生じた場合は早めに放課後などに個別対応を行う。
2年	こだわりをもち、制作に取り組める生徒が多いが、一部落ち着きがなく周りの生徒が集中できないことがある。	興味や関心のもてる題材を工夫し、技法や知識を短い期間で習得しながら制作を行い達成感を味わわせる。道具の扱い方を身につけながら規律や社会的ルールの修得を目指す。
3年	熱心に関心をもち取り組む生徒が多い。知識はあるが表現に結びつけて具体化することが苦手な生徒もいる。	机間指導を細かく行い、個別に声かけややりたいことを具体化する上でのアドバイスをし、良いところを認め自信をもたせる。

7 保健体育科

目指す生徒像を基にした保健体育科での育成したい資質・能力		
・問題発見・解決能力 ・情報活用・発信能力 ・協働的態度 ・多様性を尊重する態度 ・生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する力 ・心身の健康を保持増進する力		
学年	実態	具体的な取組
1	仲間と協働し、自主的に活動することのできる学年である。一方で、情報を自ら取得し、活用する力が弱い傾向にある。	タブレット端末を活用した調べ学習のみならず、わかりやすく他者に伝え、表現する活動に取り組んでいく。
2	主体的に活動している姿が多く見られる。一方で、自己の課題発見、解決を目指す姿に課題を感じる。	運動や健康について、批判的思考力を生かして問いを立て、解決していくようなプロジェクト型の学習に取り組んでいく。
3	主体的に取り組む場面が多いが、協働的な態度や問題発見・解決能力の向上が課題となる。	学び合いのある学習場面を設定し、互いの良さや協働的態度を引き出せるよう、ファシリテーションや指導に取り組んでいく。

8 技術・家庭科

目指す生徒像を基にした技術・家庭科で育成したい資質・能力		
・授業や実習で身に付けた知識・技能を身近な生活と関連づけ、生かすことができる力 ・共同学習を通して問題を発見し、協力して解決していく力		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	関心・意欲が高い生徒が多く、何事にも一生懸命に取り組むことができる。 班活動・話し合い活動を積極的に取り組むことができる。	住む場所に関することや身近にある材料について学び、実生活に関連させて生かす力を身につけさせる。
2年	基本的な知識を身につけ、集中して実習に取り組むことができるが、相手の意見に耳をかたむけたり、人の活動に対して観察する力が足りないところがある。	タブレット PC を活用することで、相手の意見を共有する機会を設ける。また、実習を通して問題解決する能力を育成する。I C T機器を使用して、実習が効率的に行われるようにする。
3年	班活動・話し合い活動を積極的に取り組むことができる。知識を応用して、自分の考えを発表したり、表現したりすることが苦手である。	全体の場で意見を言うのが苦手な生徒でも、タブレット PC を活用することで、考えを共有する機会を設ける。また、I C T機器を利用して、板書など振り返りや実習がより効率的にできるようにしている。授業で情報セキュリティについて取り組み、生活と関連付けて、実生活に生かせるようにしてる。

9 外国語科

目指す生徒像を基にした外国語科等で育成したい資質・能力		
身につけた知識や技能を場面に応じて活用し、自ら進んで様々な環境で多様な人とコミュニケーションをとれるようにする。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	元気で素直な生徒が多く、課題に真摯に取り組んでいる。しかし、互いに切磋琢磨したり、逆に個々人にとって必要な能力を把握し、それに向けて復習したりする学習が、目指す生徒像のためにさらに必要であると考えられる。	本日の Goal を毎授業板書し、授業の最後にふり返りのシートを記入し、学べたこと、改善点を明確化させている。 ペアでの音読練習や対話練習、個人の発表やグループ活動を通して、英語を話したり、聞いたりし合うようにしている。 復習として、ドリルパークを配信し、個々の復習や定着度を図っている。
2年	授業内では意欲的に取り組む生徒がほとんどであるが、基礎基本の定着が不十分なことから途中で諦めてしまう生徒もいる。特に「読むこと」と「書くこと」に対して苦手意識が強く、積極的に取り組めないことが課題である。	授業内で、過年度の教科書を活用した反復学習を行い、基礎基本の定着を図る。また家庭学習として、ノートに自筆で書く課題を継続して出すことで、体験的に記憶に残る取り組みを増やす。

3年	意欲的に取り組む生徒が多く、知識的なことはよく身につけていると考えられる。教師がテーマの設定等を行った課題に対してはよく取り組むことができている。一方で、自分で課題を設定し、それを達成するために、身につけた知識を必要に応じて取捨選択することに苦手な傾向が見られる。	間違いを恐れずに、自分で選んだ言葉や自分で書いた文を発表する機会を作る。 言葉選びをする際に、今までやったことを確認しながら、言葉の引き出しを自分で調節できるようにしていく。
----	--	--

10 特別の教科 道徳

目指す生徒像を基にした道徳科で育成したい資質・能力		
道徳的な判断力を高め、実践意欲と態度を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	発言ができない生徒も、自分の意見を記述することはできる。 教材の話を自分事として捉えられている生徒は一部である。	意見を記述した後に小グループでの発表を行い、他者の意見を聞く機会を作りながら授業を展開する。 導入や発問、展開の仕方を工夫する。
2年	教材に含まれる道徳的価値について理解しようとする姿勢は多くの生徒に見受けられるが、自分事として捉えられている生徒は一部である。積極的な発言ができない生徒も、自分の意見を記述したり、他の生徒の意見を聞いて考えようとしている。	自分事として捉えられるよう、発問や展開の仕方を工夫する。 協働的な学習を意識した授業展開を考える。 意見をアウトプットしやすくし、他の意見の共有を図るため、ジャムボード等の ICT 機器を積極的に活用する。
3年	他人からどのように思われているかを気にするあまり、なかなか自分から発言することができない生徒が大変多い。しかし、そのような生徒もワークシートにしっかり意見は書いている。	小グループでアイスブレイキングやブレインストーミングのような活動を繰り返しながら、誰とでも意見を交わせるような雰囲気作りを心がける。また、意見を言いたくなるような発問づくりを心がける。

11 総合的な学習の時間

目指す生徒像を基にした総合的な学習の時間で育成したい資質・能力		
インターネットや図書、新聞等のメディアを活用しながら、必要に応じた情報を収集する力を養う。 また、その情報を取捨選択し、目的や場に応じて適切に発表する力を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	本やインターネットで情報収集し、必要な情報を取捨選択してまとめることは、個人活動としてはできている。しかし、まだ協働的な学習活動の経験が不足している。	行事の事後学習をグループでの協働的な学習活動を設定し、その力を育む。 キャリア教育については、職業講話や職業インタビュー、上級学校についての調べ学習を通じて、主体的に学習する力を育成する。

2年	「上級学校調べ」「職業調べ」「職業講話」「職場体験」を実施し、卒業後の進路について考える機会を設けた。インターネットを活用し、情報収集してまとめ、様々な形で発表した。	インターネット等を活用し、情報収集、それをまとめて掲示発表やプレゼンテーションをすることができる。今後は、自分で考え、情報を取捨選択する力を伸ばすことが必要である。
3年	卒業後の進路について考えたり、修学旅行の取り組みを行い、それを発表した。	修学旅行の事後にフォトコンテストやまとめ新聞をグループで作成する活動を行い、探究的な学習活動に取り組むことで、主体的・協働的な態度を育み、より良い進路選択に繋げていくようにする。

1.2 特別活動

目指す生徒像を基にした特別活動で育成したい資質・能力		
各教科の学習及び道徳や特別活動の学習を通して、物事の基本的な考え方や学び方を習得する。さらに、『問題解決や探究活動に主体的・創造的に取り組み、自己の生き方について多方面から深く考え、その実現を目指す生徒』を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	学級活動・委員会活動・部活動に真剣に取り組む、責任を果たそうとしている。	自主性やリーダーシップが育つように、行事や学級・委員活動などで全ての生徒に役割をもたせていく。
2年	それまでの経験を今して、学級活動や委員会活動、行事等に積極的に取り組み、責任を果たそうとしている。	自主性やリーダーシップを育てるため、多くの生徒に様々な役割を設ける。そのため学年独自の行事も設けて機会を増やす。
3年	学級活動や委員会活動に意欲的に取り組もうとする気持ちは高まっているものの、他者と協同することが苦手な生徒が多い。	自主性やリーダーシップが育つように、行事や学級・委員活動などで全ての生徒に役割をもたせていく。

1.3 交流及び共同学習の進捗状況

学年	現在の状況	改善のための取組
1年	横浜移動教室の取り組みで交流を行った。共同学習では、実態に合わせて体育・国語などの授業に参加することができた。体育では、運動会で交流学級に入り、全員リレーを行うことができた。国語では、横浜新聞作りを行うことができた。	運動会の全員リレーでは、運動会1ヶ月前のリレー練習の最初に自己紹介を行ったり、特別支援学級の教員と一緒に参加したりして、生徒が安心して取り組むような工夫を行う。 2学期以降は、10月の鎌倉校外学習の事後学習の短歌作りを行う。そのため、担当の国語教諭と夏期休暇中に、時間割の調整の打ち合わせを行う。教室では、座席に考慮しながら活動させていく。

2 年	毎週月曜日に行われる学年朝礼や学期末の学年集会に参加し、クラスの成長したところや課題について発表した。体育では、運動会で交流学級に入り、全員リレーを行うことができた。	運動会の全員リレーでは、特別支援学級の生徒の前後の走者をコミュニケーション力のある生徒にしたり、特別支援学級の教員と一緒に参加したりして、生徒が安心して取り組むような工夫を行う。 2 学期以降は、11 月の東京校外学習の事後学習の短歌作りを行う。そのため、担当の国語教諭と夏期休暇中に、時間割の調整の打ち合わせを行う。教室では、座席に考慮しながら活動させていく。
3 年	修学旅行の取り組みで交流を行った。共同学習では、実態に合わせて体育・国語などの授業に参加することができた。体育では、運動会で交流学級に入り、全員リレーを行うことができた。国語では、行事の俳句作りを行うことができた。	9 月に行う修学旅行に合わせて、一学期中から実行委員会に参加したり、係会に参加をして交流を深める。2 学期以降は、9 月の修学旅行の事後学習の短歌作りを行う。そのため、担当の国語教諭と夏期休暇中に、時間割の調整の打ち合わせを行う。教室では、座席に考慮しながら活動させていく。